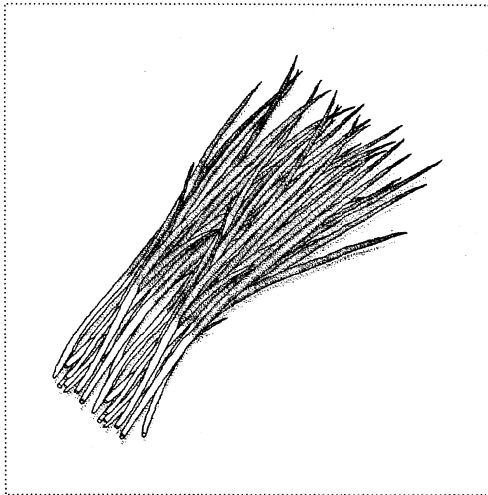


水持ち良い中性土壌に

—— 鮫島 國親

カロテン、ビタミンC、カルシウムなどが多く含まれている栄養価の高い野菜で、めん類の薬味やみそ汁の具として重宝されています。また、消臭効果もあり、肉や魚料理に使うと味を引き立てます。軽量の野菜ですが、収穫・調整作業に多くの時間を要します。根深ネギに比べて生育日数が短く、土寄せの手間がかからないので、庭先やプランターなどでも手軽に作れます。近年は専作的な周年栽培が広く行われています。今回は雨よけ栽培を紹介します。

発芽適温、生育適温ともに15-20度程度ですが、発芽温度の幅は広いです。根は浅く張り、酸性土壌を嫌います。有機質に富み、排水が良く、水持ちの良い中性土壌が適しています。連作は可能ですが、年一回は太陽熱消毒を行うと良いでしょう。具体的には、梅雨明け後ほ場を軽く耕し、小うねを作り、透明ポリや古ビニールで地面を1カ月間ほど覆います。



露地でも効果はありますが、ハウスを密閉して行うと効果が高いです。本ぼには1平方メートル当たり苦土石灰50-100グラム、堆肥2キログラム、化学肥料100グラム(三要素15%の場合)を目安として施します。なお、前作終了後、畑全体にかん水し、深層部まで湿らせます(1平方メートル当たり30リットル)。栽植密度は条間20-25センチ、まき幅10センチくらいとし、1平方メートル当たり100本程度確保されるよう種まきの密度を調節します。種まき後軽やかにかん水し、本葉が出そろって以降草丈20センチくらいまでは常に土壌が湿っている状態にします。かん水の目安は、高温期毎日-3日間隔、低温期7-10日間隔で、一回5-10リットル/平方メートル程度。生育後期(秋-春)は徐々にかん水を

控え、収穫前の2週間はかん水を中止し、葉色の濃い、棚持ちの良いネギに仕上げましょう。夏期は遮光率50%程度の資材を被せて日差しを和らげ、土壌が極端に乾燥しないようにしましょう。害虫対策としては1ミリの目合いの防虫ネットを張ると効果的です。生育日数は夏まきで60-80日、秋冬まきで120日程度です。草丈50センチ前後で収穫します。

(鹿児島県農業開発総合センター副所長)

平成19年7月12日(木) / 南日本新聞